平成　26　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4092100058		
法人名	株式会社　嘉麻の杜		
事業所名	グループホーム　嘉麻の杜		
所在地	福岡県嘉麻市下山田715番地13		
自己評価作成日	平成26年10月10日	評価結果確定日	平成26年11月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成26年10月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当事業所は開設して4年目を迎えます。嘉麻の杜の理念である【我が家】としての機能を果たせる場の提供を充実させ、利用者様の機能をできるだけ維持できるよう、食事の盛り付け、配膳等希望される方に手伝って頂いています。月1～2回の外出レクや隣接するグループホームとの敬老会、秋祭り、ｸﾘｽﾏｽ会、餅つき会などが定着しつつあります。利用者様は発表の為の踊りや歌の練習に励まれています。ご家族、地域の皆様にも参加して頂き、特に近隣の高校生による和太鼓や、保育所の園児の参加は皆様に好評です。行事の様子や生活の様子などをまとめたDVDを作成し、家族の方にお送りしており、普段の様子がよくわかると、喜ばれています。これからもご家族や地域の皆様に信頼される施設を目指してゆきたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

グループホーム嘉麻の杜は「個互の入居者のペースに合わせた、生活空間を目指して」を理念に謳い、趣味や生活習慣の継続を支援している。絵の得意な入居者が段々描けなくなっても、職員と一緒に写真を廊下に貼ることを楽めるように支援したり、地域の獅子舞の巡行や地域のお寺からホームに来ていただく彼岸法要も継続している。行事やボランティアの訪問時の入居者の笑顔の写真を満載したホームだよりを毎月発行し、今年度は入居者の様子を収めたDVDを作成して家族に喜ばれている。全家族に運営推進会議を案内し、定期的に参加される家族もあり、議題によっては地元消防団の代表や日赤病院の看護師の参加もある。また、毎月1回、夜間想定で避難訓練を実施し、地元消防団と連携し、搬送指導を受けており、今後は、地域の避難場所としてホームの活用を呼び掛けていく予定で、今後も地域との連携と理念の具現化が期待されるホームである。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：25,26,27）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：20,40）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：40）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：38,39）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：51）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：32,33）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
64	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：30）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,21）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,22）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
68	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名　**グループホーム　嘉麻の杜**

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の方がゆっくりと過ごして頂けるよう居室の温度、湿度管理などを行い、マメに声掛けする様努めている。	玄関に掲示した理念の入居者のペースに合わせた生活空間を目指して、趣味や生活習慣の継続を支援している。職員はミーティングで理念を確認しながら、入居者の笑顔にやりがいを感じている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元消防団に避難訓練などに参加してもらっているが運営推進会議など毎回参加され、差し入れなども頂いたり、近所の利用者の友人が面会に来られているが、日常的とまではいかない。	夏祭りや敬老会には保育園児との交流があり、地域の獅子舞の巡行も継続している。毎月のように来所するボランティアグループによる三味線の演奏や踊り、歌やカラオケを、入居者は楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	大きな行事の祭りごとなどは声掛けしているが認知症の人の理解や支援の方法は地域へ向けて発してはいない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事報告や避難訓練報告などおkなっている。家族から出た質疑応答にはその都度サービス向上に向けて努力している。	市担当者等の参加で、平日の夕方に定期的に開催し、会議録を整備している。毎回開催を全家族に案内し、高齢化や交通手段がなく出席できない家族もあるが、定期的に参加される家族もある。民生委員等の参加を、行政と連携してお願いする予定である。議題によっては地元消防団の代表や日赤病院の看護師の参加もある。	地域に支援の輪を広げるためにも、地元代表や民生委員の参加をお願いし、家族の高齢化や交通手段を考慮して、開催時間の見直しを検討されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催のグループホーム、ケアマネ連絡協議会に参加し情報交換しながらサービス向上に役立てている。運営推進会議には高齢者福祉課から参加頂き、ご意見を頂いている。	地域包括支援センターと居室状況の報告や入居相談等で連携したり、グループホーム協議会での研修を伝達講習している。家族への説明時に手話通訳の派遣を市にお願いすることもある。	介護相談員と意見交換の機会を持つために、事前に訪問日程を知らせてもらえるように相談される事を期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	市から資料を頂き身体拘束ゼロを目指しているが玄関の施錠などに関しては利用者の状況などを考えると難しい状況である。	行方不明等の緊急時の入居者に関する情報は、提供の了承を得ているので、事前に警察署等の関係機関に届ける予定である。鍵を掛けない暮らしの重要性を理解し、玄関の施錠に関しては今後、運営推進会議で取り上げ、安全で安心した自由な暮らしの実現に取り組んでいく予定である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	グループホーム連絡会議やｹｱﾏﾈ連絡会議等で配布される資料などで検討している。		

福岡県　グループホーム　嘉麻の杜　　平成26年11月17日

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を活用されていた方の入所はあったが成年後見人制度については学ぶ機会が少なく職員全員が理解しているとは言い難い。	日常生活自立支援事業や成年後見制度の資料を整備し、内部研修を実施している。現在、日常生活自立支援事業を活用している方が1名、入居されている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の前には時間を頂き理解して頂けるよう　具体的に説明を行っている。疑問点や不安などにはその都度対応を行っている。。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時や運営推進会議などでご意見やご要望を伺うようにしており、利用者には事あるごとに意見など伺いその都度解決できるように努めている。	ホームだよりを毎月発行し、全家族に送付している。今年度は入居者の様子を収めたDVDを作成し、家族に喜ばれた。家族会はないが、クリスマス会等の多くの家族が参加される機会に、家族同士で話し合う場を提供する予定である。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回のミーティングなどで職員の意見を求めているが通常業務でも職員から出た意見や提案は反映されている。	定例のミーティングで提案された入浴の際の滑り止めマットやチェアー等の購入が、実現している。トイレ誘導の声かけや入居者のトイレ使用が集中する時間がある等の意見が出され、検討が課題となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個々の勤務状況等把握している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用には性別、年齢に関係なく介護に対する情熱を最優先に考え、採用基準にしている。	ハローワークで、資格の有無は問わないで募集している。65歳定年ではあるが、継続して働くことができ、現在20代から60代の職員がいる。経験に応じた新人教育が実地され、外部研修の参加も促している。今年度も介護福祉士やケアマネージャーの試験に挑戦する職員があり、資格取得を奨励し、旅費の支給やシフトに配慮している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	朝礼、ミーティング等日常的に利用者に対する接遇教育が行われている。	全職員が参加し、人権に関する内部研修を実施している。声かけや態度等気になる点は、その都度注意し、人権を尊重した言葉遣いや声のトーンなどを配慮したケアに努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社年数に応じ処遇記録研修や認知症介護実践者研修など受講できる機会を設けている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	隣接する桧の郷と合同で敬老会、秋祭り、ｸﾘｽﾏｽ会、餅つき会など交流を図り、意見交換をおこなっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前から情報を収集し、少しでも不安を減らし入所して頂けるよう心掛けている。 、又、新しい環境に　慣れるよう職員全員が関係作りに勤めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	情報収集を心掛け、不安や要望に添えるように心掛けている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	時間をかけて話を伺い必要としている支援に対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の配膳盛り付けなどできる限り一緒に行えるようにし、できる事は本人の要望を伺いながら手伝って頂けるよう声かけし、希望があれば時間の許す限り一緒に買い物なども行っている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事あるごとに最近の様子をお伝えし、情報の共有を心掛けている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お盆の時期の墓参りや敬老会の招待に応じ地元の会に参加したり、懐かしい方にもお会いできたことで涙ぐまれ喜ばれている	地域のお寺からホームに来ていただく彼岸法要を継続したり、お盆のお墓参りに出かけ、お寺で懐かしい方とお話したりしている。自宅の近所の方が会いに来られることもある。家族と馴染みの美容院に出かけて、外食される入居者や、年に何度か家族と旅行を楽しむ入居者もいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	難聴の方などは会話に入れず意思の疎通が難しいが職員が間に入り、声掛け支援を行う事で皆さん仲良く過ごせている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も今後家族の入所を希望される方もおり、入院先へお見舞いしたり、施設探しの援助など行っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御家族やご本人の希望や意向を尋ね、ミーティングにて職員全員で検討している。	本人がはっきりと意向を伝える場合も多いが、関わりの中で気付いたり、把握した点はミーティングで共有している。絵が得意な入居者は段々と描くことが難しくなり、今は職員と一緒に行事の際の写真を貼り付けることを楽しみにしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族やご本人、面会に来られる友人などに入居前の様子や利用されていたﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽから情報提供してもらい、本人の生活史を把握するよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録にて時間毎の記録をし、朝夕の申し送りにて現状を把握し,隔週の訪問診療や訪問看護にて健康面のチェックが出来ている。ケアプラン更新月にはアセスメントもとり直している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族より意見を聞き、ミーティングや担当者会議にて職員で話し合い訪問診療や訪問看護の意見を反映し、介護計画を作成している。	担当職員が計画作成の前の担当者会議にも参加し、日々の暮らしぶりを報告している。ミーティングでサービスの実施状況や新たな課題を話し合い、計画作成担当者がモニタリングと評価を実施し、計画の変更につなげている。	抽出した課題に沿った介護計画を作成をお願いします。また、全員がいつでも計画を確認できるように、書面をどこに管理するについて、検討されることを期待します。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気付きや工夫は個人記録に記入し、受診結果なども職員全員で把握できるよう申し送り等で伝え、周知できる出来る様にしており、ケアプランの見直しにも反映させている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対応する為、本人家族に参加して頂き、必要があれば手話通訳の方に参加をお願いし、納得のいく支援が出来るように心掛けている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月一回の避難訓練には地元の消防団に参加してもらったり、彼岸には地元のお寺の彼岸供養、必要に応じ美容室から訪問してもらい散髪をしてもらったりと支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携にて日赤病院より訪問診療、訪問看護が隔週あり、急病には往診してもらったり受診したり、必要があればすぐに入院も出来る様な体制が出来ている。	本人が希望するかかりつけ医受診を支援しているが、入居時に家族から協力医療機関に変更したいとの申し出も多い。眼科や歯科の訪問診療を支援しているが、家族同行で眼科に受診される入居者もある。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員が気付いたことは管理者や看護師に報告・相談し、訪問診療や訪問看護に報告し、適切な対応が出来ている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日赤病院と医療連携しており、時には運営推進会議にも参加してもらい、日頃から連絡を取り合っている。利用者の入院時や退院後も今後についての話し合いを行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方については入居の契約時から説明・理解を頂いており、入院時には今後についての話し合いをDr・家族・職員同席のもと十分に行っている。	入居契約時、重度化や終末期に向けてホームの対応指針を説明しているため、重度化した場合は医療機関に移られることを了承されている。本人や家族ができるだけホームで暮らしたいと望まれる時は、入居中は安心して過ごせるよう支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に心肺蘇生の講習を受けAEDを備え、使用方法を職員全員が把握している。一人一人の病状の対応については訪問看護の看護師からその都度指導を受けている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定の訓練を行っており、隣接する施設との合同訓練も行い、地元消防団にも協力をお願いしている。	毎月1回、夜間想定で避難訓練を実施している。地元消防団と連携し、搬送指導を受けたり、年に一度、救急蘇生法やAEDについて学んでいる。水や食料品の備蓄がある。今後は、地域の避難場所としてホームの活用を呼び掛けていく予定である。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の居室への入室には声掛けを行い、呼び方や、言葉遣いなど基本的なことは全員が守るよう心掛けている。個性を大切にし、人格を尊重している。	理念の中に「プライベート空間の確保及びプライバシー保護に努め」と謳い、職員は全員で言葉遣いや誘導の際の声掛け等に配慮して、支援している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	殆どの利用者は希望を伝える事ができ、できない方は職員が推察したり、家族の協力を得て思いをくみ取れるよう努力している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事時間などはなるべく本人の意向に沿えるよう心掛けているがまだ完全に確立してはいない。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や受診の際など着替えて頂き、メリハリをつけている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のある料理を心掛け、庭で収穫したトマトやゴーヤなど使用している。食事の盛り付けや配膳など能力に応じてできる事をして頂いている。片付けや茶碗洗いなども自発的に行ってもらっている。	職員は1名が伴食している。二つのテーブルに分かれ、全員が普通食であるが、胃の手術をした入居者以外は、完食されている。入居者は職員と冗談を言いながら楽しく食事をしている。毎月の外出の際の外食を楽しみにされ、バイキングや回転寿司が好評である。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い食事、献立にし、1人1人の状態に応じた食事量にしている。DM食については医師の指導の下に行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛け、支援を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の習慣を把握しつつ一人一人の支援を行っている。	全員に尿意や便意があり、自分でトイレで排泄されたり、時間毎の誘導で布パンツで過ごす入居者もいる。排泄チェク表を作成し、排泄支援や水分摂取の目安にも活用している。夜間は3名の方がポータブルを使用している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師医師の指導の下に行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々に応じた支援をしているが時間帯についてはまだ出来ていない。	週に3回、月・水・金を入浴日にしている。浴室は明るく、広々とした脱衣室は寒さにも対応できている。順番表を作成し、全員が1番風呂に入れるようにしたり、入浴剤で気分よく入浴できるようにしている。希望で同性による介助をしているが、入浴拒否の方はいない。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来ている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	状態報告と共に服薬目的や副作用について説明し合っている。変更時には申し送りやノートなどに記載し。全職員に徹底している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや食事の準備、折り紙・手毬作り・絵画など能力に応じた声掛け支援を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じた花見等の外出や隣接する施設との合同慰問などに出かけている。利用者の希望になるべく添える様希望を聞き家族にも協力して頂き行っている。	車椅子利用者が多いが、月ごとの外出計画があり、初詣、梅、桜、藤、菖蒲と季節の花見や外食が行われている。個別の買い物等に同行したり、病院受診時に買い物に立ち寄ったりしている。家族と外食や旅行を楽しむ入居者もいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出レクの際には財布をお渡しし、自由に買い物が出来るようにしている。又必要なものがある時は職員が同行して買い物を行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば直接電話して頂いたり、要件を伝えたりしている。手紙やはがきを定期的に出す方もおられる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに壁飾りを替えたり、加湿器・空気清浄器、エアコンなどで調整を行っている。整理整頓し掃除点検を行っている。又、窓越しに緑のカーテンとなるようゴウヤやヘチマを植えて季節感を出している。	玄関には、座って靴の脱着ができるように作り付けのベンチがある。廊下は車椅子や歩行器で交差しても充分に余裕がある広さで、トイレも車椅子の入居者の介助が充分できる広さがあり、明りとりや防臭に配慮されている。オープンキッチン前のリビングの窓からは、山々の紅葉する様子がみられ、食後は気に入りのソファでテレビを見たり、お喋りを楽しんでいる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の後の時間にテーブルでゆっくり話されたりソファーでテレビを見ながらお話されたりとゆったり過ごされている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスなどを持ち込んだ頂き仏壇など持ち込まれる方も多い。鉢植えや好みの花などを買って来られ手入れされ花の水替えや等は、職員がお手伝いしている	引き戸の各居室には、花の名前の素敵な表札が掛かっている。大きなクローゼットが設置され、荷物の整理が出来ている。温度湿度計、空気清浄機が置かれ、自宅から愛用の家具やテレビ、仏壇や位牌、家族写真が持ち込まれ、入居者自作の手芸品や折り紙の作品がきれいに飾られるなど、個性豊かな居心地よい居室となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全てバリアフリーになっており、手すりを設置している。居室には本人手作りの名札を下げ他の部屋はプレートなどで解かりやすく表示している。		